

今回の ESD のひろばでは、「エシカルな消費」をテーマに 2 回に分けてお話ししたいと思います。皆さんにお買い物をするときに、どのように物を選んでいるでしょうか？私たちが洋服を買う時、お野菜を買う時・・・、まずは商品を気に入って、それに見合った値段だったら、「買おう！」ってなりませんか？だから良いものを安く買った時は「得した！」って、うれしくなりますよね。エシカルというのは、自分の得だけではなく、それを作った人の得や、それを買った場合の社会への影響を考えることなんです。そんな考えを持つことをエシカルコンシューマニズムっていいます。

自分がいいと思ったものを買ったらいんじゃないの？

もちろん！それで構わないと思います。自分の視野が広がると価値観も変わることありますよね。さて、そもそもエシカルってどんな意味でしょうか？辞書では「倫理的な」とか「道徳的な」という意味があって、コンシューマは「消費者」のようですが、どういう商品を選ぶ時にそれが必要なのでしょうか？農産物、洋服、化粧品、タオルなどなど、たくさんありますが洋服を例にあげてみたいとおもいます。洋服で思い浮かぶのはエシカルファッショントイの言葉です。あるブランドではアフリカで貧困状態にある女性に手作りバックの製作を依頼して生活を支え、自立支援するプロジェクトが有名になりました。最近では、ラグジュアリーブランドが次々と毛皮の使用をやめて、人口毛皮を使うようになってきました。これらは企業側からのエシカルな提案なのでしょうね。



フェアトレード

エシカルに物を選ぶときのひとつとして、フェアトレードという視点があります。最近コーヒーショップとかで聞くようになりましたね。やはりフェアトレードって聞くと、コーヒーとかチョコレートとか、綿とか、外国の農産物を思いだします。生産者は安く買いたたかれることで、労働者に低賃金で働かせ、生活に困った労働者は小さな子どもを働きに出すようになってしまいます。そして低コストで生産性をあげるために大量の農薬を使用して、土壤の汚染や労働者の健康にも被害を及ぼすようになっていくのです。土壤汚染はやがて水質汚染や、海洋汚染につながるのは皆さんの想像のとおりです。でもそれは、遠くの国だけの話ではなくて、過剰に農薬を使われた農産物や、その国の近海でとれた海産物はめぐりめぐって私たちの口に入れます。そんなふうに考えてみると結局、自分の得を守るには、相手の得も守らなければならないってことなのでしょうか。作った相手のことを考えながら買い物をする私たち親の姿を見て、子ども達も自然に相手のことを考えることが身についていくといいですね。

